

協議結果

次の協議会を下記のとおり開催した。

名称	第3回益田市地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和3年11月25日(木) 14:00~15:30
開催場所	益田市役所 大会議室
出席者	<p>○出席者</p> <p>[益田市地域公共交通活性化協議会委員]</p> <p>島田博会長、藤原政志委員、原忠男委員、坂本博志委員、山本勝利委員、平塚峻也委員、川崎友弘委員、伏谷正明委員、草野和馬委員、岡崎朝子委員、吉本徳生委員、石川洋紀委員、中島克仁委員、梅津明則委員、野村美夜子委員、石川秀文委員</p> <p>[事務局]</p> <p>田原連携のまちづくり推進課長、清水課長補佐、吾郷係長</p> <p>○欠席者</p> <p>[益田市地域公共交通活性化協議会委員]</p> <p>渡辺健一委員、平西邦裕委員、村岡宙委員、品川勝典委員、加藤博和副会長、鬼村まり子委員、佐藤稔委員、三浦恭嗣委員、豊田芳明委員、岩崎伸史委員、</p>
議事	議題1 益田市地域公共交通計画策定について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1名
問合せ先	政策企画局連携のまちづくり推進課 電話 0856-31-0600

協議経過

1. 開会	
2. 議題	
議題1 益田市地域公共交通計画策定について	
○第2回活性化協議会での主な意見について 資料1	
・事務局から、第2回益田市地域公共交通活性化協議会での主な委員からの意見、その対応について説明。	
委員	(意見なし)
○アンケート結果について 資料2・3	
・事務局から、市民アンケート調査と高校生アンケート調査の結果について説明。	
委員	(意見なし)
○課題の整理～基本方針～基本目標について 資料4	

委員	<p>運転手不足は難しいテーマで、基本目標3のところは必要になってくると思いますが、目標2の利用しやすい公共サービスでなければ運転手になろうという人も少ないかもしれないので、(目標2と目標3は)繋がっているかもしれないと思いました。公共交通は課題が難しく、皆さんも意見が難しいのではないかと思います。</p>
委員	<p>協働・連携というところで公共交通をつくり・守り・育てていただくということが出ていますが、いろいろな交通機関を利用していただいて、会社からお返しできることに繋がるのではないかと考えています。運転手不足の対応については、難しく思います。</p>
委員	<p>事務局として、課題がそれぞれの基本目標に繋がるという図を、計画書の中に載せるのか。それとも、6つの課題を解決するための3つの目標として示すのですか。</p>
事務局	<p>この場で様々なご意見を頂ければというところではありますが、事務局としては、6つの課題がそれぞれ(お互いに)関係していると考えていますので、線を消して、6つの課題に対して、3つの目標があるという表記に直すことも想定しています。</p>
委員	<p>課題と基本目標の結び付け方ですが、見せ方としては線で結んだ方が、関係性がよくわかると思います。</p>
委員	<p>表の見せ方としては線で結び付けながら、表現でそれぞれ関係することがあるかと思うので、説明の中で加えていただければと思います。</p>
事務局	<p>本日の資料は、ネットワーク、サービスそして協働・連携という大きな目標に対して、それぞれの事業を想定しています。この確認をとらせていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>3番目の事業の地区内を運行する公共交通の維持ですが、田舎で高齢になるとバス停まで出る高齢者は、距離があると難しいと良く聞くので、そういったことがこの項目の中で、いろいろと検討されるかどうかということです。</p>
事務局	<p>今回の公共交通計画の策定というのはまず大きな方向性を示すものです。益田市内の20地区での事業を記載する予定はありませんが、市として、地区内を運行する地域公共交通を維持するために、5年間の中で、市、地区、交通事業者、関係団体等皆様に、ご自宅から近くのバス停までを、どういう手段でいくのかなども、検討課題としては、進めていくというところです。現在運行している乗合タクシーも利用者数が減っている中、近くのバス停まで行く手段がマッチングしていないというところであれば、見直すということも含まれると想定しています。</p>
委員	<p>ニュースで、自宅から地域の中心まで行くような方法というので、いろんな方法をとっておられる。全国的にも県内でも色々ありますので、そういったことも地域とすれば、参考になるものがあればいいなと思ったところです。</p>
事務局	<p>移動手段の確保に向けた支援なども進めたらと思っていますので、ご意見もここに絡んでくるかと思います。一つの目標ひとつの事業というより、それぞれの事業がいろんな目標に紐づいてくると思います。</p>

委員	<p>匹見地区は市内までの距離が一番長く、乗換えのたびに運賃の支払いが必要なため、費用面が生活するうえで負担になっておられると思います。アンケート結果を見ても匹見では運転が心配で、本当は免許を返納して安心して公共交通機関で移動したいと思っておられる方がたくさんおられると思いますが、費用と時間の事を考えると、なかなか返納しにくい現状であります。</p> <p>高齢化も一番進んでいる地域で、病院に行く方が多いのですが、市内まで出た後でまた乗り換えをして病院に行かなければなりません。なんとか匹見から乗れば病院まで乗ったまま行けるなどアクセスしやすいような方法、仕組みが皆さんの意見を踏まえて出来ると、匹見地域でも生活しやすいまちづくりに繋がってくると思いますので、考えて頂けるとありがたいと思います。</p>
事務局	<p>ヒアリング等で地域を回らせていただいた際にも、匹見地区に似たような状況というのは、中山間地域において発生していることは確認しています。総合的に3つの基本目標の中で、カバーできるようなものを生み出していけたらと思います。</p> <p>実際、計画がスタートしてから、詳しい事業の組み立てなどについても、毎年見直しをし、更新して事業の確認をしていくという作業がございますので、その中で地域の皆さんの状況もお知らせいただきながら、実際の事業に反映できるようにしたいと考えております。</p>
委員	<p>医療分野の送迎でも、運転手が必要となりますが、何歳まで働いてもらうかが問題となっています。現在は70歳までとなっていますが、それ以上でも働きたいという方もいらっしゃいます。</p> <p>また、地域の中で新たな交通を考えるとなった場合、交通事業者の方がやられるのがベストだとは思いますが、それも難しいと思っはいます。代わりに地域の方がやるのかというのも、難しい話になるなと感じました。</p>
委員	<p>住民主体による地域福祉活動の推進が一つ大きな目標としてあるわけですが、今回のアンケートでも地域住民で交通手段に取り組みたいという回答が290人と多くの方が思いを持っている状況がある中、一方で公共交通の存続をさせていく必要を考えると、公共交通と地域住民の共存も今後大切になって来るのかと感じました。</p>
事務局	<p>医療福祉の観点からも計画に反映させたいと思います。福祉サービスの活用というところでは、高齢者の方が移動手段として活用されている事例もありますので、参考にさせていただきたいと思っております。今以上にサービスの活用が見込まれることもあるかもしれませんので、実情に即した対応も、庁内で連携しながら図っていきたいと考えております。</p>
委員	<p>地域活動での交通は、今の段階ではどこの事業にはいると思われれますか。</p>
事務局	<p>6番8番9番を想定しています。6番の移動手段確保に向けた支援には地区内の移動手段も当てはまると思います。また、公共交通の乗り方教室も地域の方々と一緒になって行うことが出来れば良いと思いますし、公共交通の普及活動と啓発活動というのも、まず乗っていただくというきっかけづくりというのは、地域の皆様と協働、連携しながら進めて行ければと想定しています。</p>
委員	<p>観光との関係で、観光地間を結ぶ手段はタクシーしか無かろうということで、市内のタクシー</p>

	<p>事業者等と話し合いをしており、観光プログラムの中でも準備しています。</p> <p>事業8の公共交通の乗り方教室、事業9のモビリティマネジメントの実施、事業10の運転士不足の解消。こういった内容は、仕組みではなくて使いやすさや公共交通の維持に向けた取組みで、環境整備なのではないかなと思いますので、ネーミング等の内容と若干ずれがある気がしました。1ページの基本目標2の案ですが、本文が計画書にほぼ同じ形で出るとすれば、基本目標1の2行目、福祉交通施策、や基本目標2の1行目、交通支援や各種制度とありますが、それぞれ若干の具体例を掲げた方が理解しやすいと思います。1ページの下あたりに持続可能な地域公共交通を維持するとありますが、ここに限らず同語反復になっているので、文言整理をした方がよいと思います。2ページの基本目標2の事業6ですが、移動手段確保に向けた支援として、例えばガイドラインづくりという話がありましたが、中心地を外れた地域で困っているのは、地域で交通体系をつくる際に道路運送法や車両保などの縛りが支障になります。ガイドラインの中でこういった手法はあるということは示していただき、地域での検討材料、バイブルとなるものを準備していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>事業名のところで環境整備にあてはまる場所ではありますが、環境整備という物を地域の皆さんと一緒にやっていく認識がありましたので、こういった形の枠組みにしています。こちらは、持ち帰り整理できる場所は整理し、次回ご提案できればと思います。文言整理についてはもう一度確認をしていこうと思います。事業6のガイドラインづくりですが、地域に出た際に、何が出来て何が出来ないかというご質問を頂くこともありますので、関係機関と協力して、作成できるように進めていきたいと思います。</p>
委員	<p>交通手段のない地域にも配慮しなければいけない、また公共交通の維持もしなければいけないという、両方の局面で矛盾したことをまとめるのは難しいと思いますが、地域の交通手段を守るためには、地域の皆さんが生活パターンを変えて公共交通を利用すること。まずは市役所につとめる職員がバスに乗り、多くの会社にも協力してもらいバスを利用する。そうすると公共交通もある程度配慮ができ、少ないところにも手が差し伸べられるということが基本ではないかなと思います。誰もがバスに乗れるチャンスはあるので、益田の地域全体の時間がゆっくり流れてもよいので、みんなが公共交通を利用する。市職員も全員公共交通を利用するといったことまで考えていかないと、なかなかこの問題は解決できないんじゃないかなと思います。</p>
事務局	<p>今市役所に努める職員も毎月ノーマイカーデーを設定していますが、もう少し徹底していかなければならないと思いました。時間をゆっくりと過ごすという生活スタイル、価値観の見直しといったところも、またご意見いただきたいと思います。</p>
委員	<p>資料4の1ページの課題と基本目標の関連について課題の一番下の『地域を含め、多様な主体と協働・連携した対応』というところですが、福祉では、地域福祉の所で交通の確保というのは大きな課題になっている中で、訪問型サービスDで地域内の高齢者サロンへの送迎などの事業を</p>

	進めています。基本目標1のところにも関連するところは検討していただければと思います。
事務局	事務局としては事業6の所に訪問型サービスDと想定しておりましたが、基本目標1の事業3の地区内を運行等にも関連するので、ネットワーク基本目標1と、課題『地域を含めた多様な主体と協働・連携した対応』というのは一本線でつなぐという方向で修正したいと思います。
委員	基本目標1の事業3と事業6は両方とも地区内の移動手段というところで重複する部分があるので、そこら辺の住み分けが要るのか要らないのかということも含めて検討していただければいいのかなと思います。
事務局	事業3と事業6ですが、具体的な例をまだ挙げてないところがありました。事業3は、地区内で生活バス、乗合タクシー、過疎バス、福祉バス、などを想定しておりました。事業6は、訪問型サービスDを実施する方々への補助金等の支援を想定しています。次回には具体的な事業例等を記載することで、委員の皆様にもご説明できればと思います。
○策定スケジュールについて 資料5	
委員	今後の進め方について改めて説明をお願いします。
事務局	当協議会と庁内推進委員会が関連し合いながら事業策定を進めている所でございます。本日頂いたご意見を持って、12月には庁内推進委員会の開催を考えています。関連する課や関係団体の皆様とも協議し、事業や数値目標など、1月に開催する第4回の当協議会で、委員の皆様にお示しできればと思っています。その後、2月のところで、パブリックコメントの実施も考えており、そして、当協議会と庁内推進委員会を最後に予定しているところです。
委員	事務局は本日の協議内容を踏まえ、基本目標に向けた事業と数値目標、また関係団体との協議を踏まえて、第4回のこの会議に向けた準備を進めていただきたいと思います。
3. 閉会	